

## 南アフリカ為替週報

2022年10月13日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (10月6日～10月12日)

USD/ZAR: 17.7050～18.3325  
ZAR/JPY: 7.99～8.16 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、下落。6日、7日と明確に水準を切り下げた後、対ドルでは軟調気味の、対円では堅調気味の膠着を続けた。対ドルでの直近安値(9月28日の18.2225)を、10日(18.2275)、12日(18.3325)と相次いで割り込み、小幅ではあったものの、2020年5月来の安値をじわじわと更新した。この間、ドル/ランドの値動きは、ドル指数(ICE)のそれと概ね符合した(ドル指数上昇=ドル高/ランド安)。ドル指数の上昇という、これは米長期金利動向の影響を色濃く受けていたように思われた(米金利上昇=ドル高)。従って、ランドの下落も、南ア固有の要因によるよりも、米長期金利上昇を背景としたドル全面高の一環の色彩が濃かった。ただし、米金利上昇の背景に関しては、はっきりしたことはわからなかった。米金利が上がり、ドルが買われるたびに、米連銀高官の鷹派発言(注)が材料視されたものの、発言に新味があったとは感じられなかった。正直、発言を受けて米金利上昇/ドル高に反応したというよりは、米金利上昇/ドル高を受けて一連の発言が言い訳に持ち出された感の方が強かったように思われた。11日の北米時間午後になって英中銀ペイリー総裁が「残されているのは3日」などと述べ、英長期国債市場支援策を予定通り引き揚げる方針を明言したことには、敢えて、材料視するだけの重みがあったと言えなくもなかった。同発言を受けた長期金利上昇は英国債にとどまらず、米国債を含む世界中の債券利回りを引き上げ(価格は下落)、ランドを含む新興市場通貨全般には明確な悪材料と読めた。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/7	6:00	総外貨準備高(USD)	9月	58.89bn	59.15bn	59.76bn
10/11	11:00	製造業生産(前年比)	8月	+1.4%	-0.7%	+3.9%r
10/12	9:30	企業景況感指数	9月	110.9		110.3

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉 (10月13日～10月19日)

USD/ZAR: 18.100～18.600  
ZAR/JPY: 7.90～8.10

向こう1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、足元軟調推移継続を予想。上述の通り、足元ランド安はドル高の反面の色彩が濃く、振り返れば過去6か月あまり、その傾向は継続している。背景には、勿論、米連銀による積極的な金融引き締め(利上げ)姿勢があり、南ア準備銀は利上げで先行し、その後も利上げを続けてはいるものの、そのスピード感は比べるべくもない(3月16日の米連銀利上げ開始以来、米連銀の利上げ幅は0.25→3.25%と+300b.p.に及ぶのに比し、南ア準備銀のそれは4.00→6.25%と+225b.p.にとどまる)。上述の通り、米連銀が積極的な追加利上げ姿勢を堅持している以上、こうした環境が早晩変化する可能性は低い。一方で、南ア準備銀の追加利上げ観測に関しては、足元、むしろ後退しており(金利先渡契約(FRA)12×15ヵ月物の推移に読み取れる向こう12ヵ月間の利上げ見通しは、9月末に、一時、+240b.p.前後にまで上昇したものの、その後+180b.p.程度にまで低下して推移している)、政策金利動向からランド反発を見込むのは難しい。足元最も目を引く南ア成長阻害要因は連日の計画停電であり、それはまたランドの大きな重石になっているが、南半球の冬が終わり、電力需要が低下することで、電力不足が緩和するという地味な要因の他に、ランドの方向感を変え得る南ア要因としては、10月26日の中期予算政策声明(MTBPS)、12月の与党アフリカ民族会議(ANC)党大会(党首選)などが考えられる。見方を変えれば、こうしたイベントが好材料を提供するまでは(提供される保証はないものの)、少なくとも現状は、ランドの方向感が明確に変わる展開は想定し難いことを意味しよう。

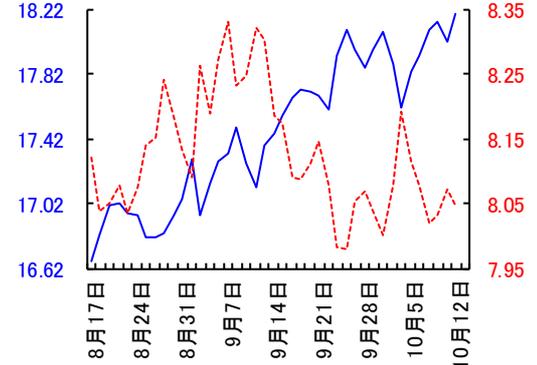
〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/13	9:30	鉱業生産(前年比)	8月		-6.9%	-8.4%
10/19	8:00	CPI(前年比)	9月			+7.6%
	11:00	小売売上高(前年比)	8月			+8.6%

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

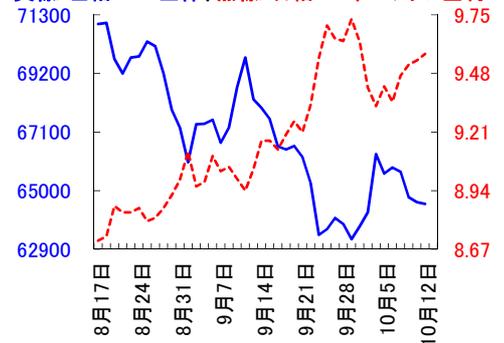
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		6.25%
長期金利(10年スワップ)	10月12日	9.570%
株価指数(JSE全株)	10月12日	64528.23
成長率(GDP/前年比)	Q2	+0.2%
経常収支(ZAR)	Q2	-87bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	8月	+7.6%
小売売上高(前年比)	7月	+8.6%
製造業生産(前年比)	7月	+3.7%
鉱業生産(前年比)	7月	-8.4%
貿易収支(ZAR)	8月	+7.2bn
金価格(ロンドン17:00)	10月12日	1669.71

(注) ミネアポリス連銀カシュカリ総裁「利上げ休止はかなり遠い先(6日)」メスター理事「利上げ減速を正当化する根拠なし(6日)」シカゴ連銀エバンス総裁「政策金利を早急に(前倒して)引き上げる必要がある(10日)」クレーブランド連銀メスター総裁「インフレは鈍化していない(11日)」など

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。